

体育科学習指導案

東広島市立板城西小学校

第2学年 16名

単元名：とびばこあそび

指導者：望月 亮

場 所：体育館

1 単元について

単元の目標

- 跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗り、跳び乗りをすることができるようにする。
- 跳び箱遊びに進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、場の安全に気を付けたりすることができる。
- 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫できるようにする。
- プログラミング的思考を取り入れて、運動のつながりや順番を考えながら「とびばこあそび」に取り組むことができる

運動の特性

いろいろな高さや向き、組み合わせの跳び箱をいろいろな跳び越し方で跳び越すことが楽しい運動である。

そして、これらの遊びを通じて、体を腕で支持し跳び箱を跳び越える支持跳び越しの技（開脚跳び、かかえ込み跳び、台上前転など）へとつながる動きを身に付けるようにする単元である。目標とするのは、安定した動作で跳び越すことができるようになることである。運動が身に付きやすくなるような場や補助具を活用して取り組んだりすることが大切である。

また、開脚とびの動きを高めるためのいろいろな運動の難易度や順序を考えることを通して、新学習指導要領で求められているプログラミング的思考を育むことができると考えられる。

児童の姿

男子7名、女子9名、合わせて16名の少人数のクラスである。児童は元気がよく、体育の時間には、意欲的に活動できる児童が多い。本年度に行った新体力テストでは、A判定の児童が6名、B判定の児童が4名、C判定の児童が4名、D判定の児童が1名、不明1名（転入生のため）であった。

しかし、体の動かし方が不器用な児童もあり、十分に遊びの体験ができておらず、運動が苦手だと感じる児童もいる。また、児童のかかわりが十分にできていないところがあり、できない時に教えあったり、学びあったりすることも十分でない面も見られる。

今回の「とびばこあそび」の学習で学ぶいろいろな運動を通して体を動かすことの楽しさや面白さを体感できるようにしたい。

指導上の手立て（☆かかわり合い）

<わかる>

- 腕支持や突き放し、踏切を意識して、簡単な遊び方を工夫することができる。
- いろいろな運動のつながりや順番を考えることができる。

<できる>

- 跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗りをすることができる。
- 開脚跳びにつながる運動をすることができる。
- ☆腕支持や突き放し、踏切を意識しながら、児童がグループになり、お互いに教え合い学び合う活動をさせることで児童がかかわり合うことができるようにする。

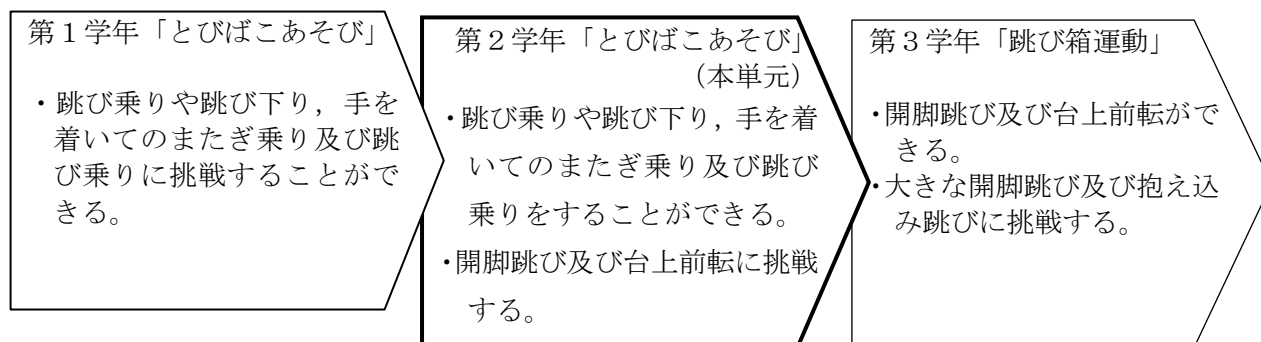
<取り組む>

- ☆約束やルールを守り、友だちと助け合って練習に取り組むことができるように、話し合いや振り返りの時間を設けることで、さらに児童同士がかかわり合っていくことができるようにする。
- ☆場の危険を取り除いたり、器械・器具の安全に気を配ったりして跳ぶことができるようにするために、安全な場の設定の仕方を指導し、子供たち自身で確認し、跳び箱やマットなどを設置させる。

<プログラミング的思考>

- 児童にプログラミング的思考の「順次」の思考を身に付けさせるため、カードを使って開脚跳びにつながる効果的な運動の順番を考える学習活動を行う。

(単元の系統性)



2 単元の評価規準

	ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	ウ 運動の技能
単元の評価規準	・「とびばこあそび」としての易しい運動遊びを楽しむための活動に進んで取り組もうとする。 ・運動の順番を守ったり，跳び箱などの使い方のきまりや運動の仕方をのきまりを守ったりして仲良く運動しようとしている。 ・跳び箱などの安全などを確かめようとする。	・「とびばこあそび」としてのやさしい運動遊びが楽しくできるようにいろいろな運動遊びの行い方を知っている。 ・運動が楽しくできるように運動の行い方を考えたり決めたりしている。 ・いろいろな運動のつながりや順番を考えている。	・跳び箱などを使って，自分の体をいろいろな動かすことができる。また，発展の技に挑戦することができる。
学習活動に即した評価規準	① 「とびばこあそび」としてのやさしい運動ができるように，意欲的に練習しようとしている。 ② ルールやマナーを守り，友だちと助け合って練習をしようとしている。 ③ マットや跳び箱，踏切板などの準備や後片付けを友だちと声かけをしながらしようとしている。	① 「とびばこあそび」としてのやさしい運動遊びを練習の場や方法を工夫しようとしている。 ② 友だちと協力して「とびばこあそび」としての易しい運動遊びをしようとしている。 ③ 運動の難易度を考えて試しながら，順番やつながりを確かめている。	① 跳び乗り，跳び下り，手を着いてのまたぎ乗り及び跳び乗りの運動をすることことができる。また，発展の技である開脚跳び及び台上前転に挑戦することができる。

3 指導と評価の計画

時	1	2・3	4	5	6（本時）	7
目 標	跳び箱あそびの単元について知り，友だちと協力して進んで取り組むことができる。	踏み越し下り，またぎ乗り，跳び乗り，かえるの足打ち，よこ川とびこし及び跳び箱を使つての前転がりなどをして遊ぶことができる。	開脚跳びにつながる，様々な運動遊びの体験を通して，児童自身が考えて，踏切，腕支持，突き放しの各運動に取り組むことができる。	開脚跳びにつながる運動で， <u>跳び箱を使わない運動</u> のつながりや順番を考えたり，その運動遊びをしたりすることができる。 （プログラミング的思考）	開脚跳びにつながる運動で， <u>跳び箱を使った運動</u> のつながりや順番を考えたり，その運動遊びをしたりすることができる。 （プログラミング的思考）	これまでに学習した開脚跳びにつながる運動を生かし，開脚跳びを発表する。
主 な 児 童 の 学 習 活 動	○オリエンテーション ・準備運動で，跳び箱遊びの運動に入るための注意事項を聞く。 ・足パタ，馬跳び及びかえるの足打ちの各運動に挑戦する。 ・跳び箱の準備の仕方，気を付けるポイントを聞く。 ・友だちと協力して跳び箱の準備をすることができる。 ・試しの運動として，いろいろな高さの開脚跳びにチャレンジする。 ★友だちと協力して，跳び箱の準備をしたり，片づけをしたりできるようにする。〈取り組む〉 ○これまでの跳び箱を使った運動遊びで跳んだ跳び方で跳ぶ。	○準備運動をする。 ○めあての確認する。。 ○踏み越し下り，またぎ乗り，跳び乗り，かえるの足打ち，よこ川とびこし及び跳び箱を使つての前転がりについて児童が楽しんで遊び行えるよう説明を聞く。 ・安全に気を付けて運動をする。 ・サーキットトレーニングのように自分のペースで，それぞれの運動する。 ★跳び箱遊びとしてのいろいろな易しい運動を理解する。〈わかる〉	○準備運動する。 ・体の良く使う個所や傷めやすい箇所の柔軟運動する。 ・音楽に合わせて，いろいろな運動遊びする。			
			○めあてを確認する。			
			○跳び箱を使わなかったり，跳び箱を使ったりした踏切，腕支持，突き放しの運動を体験をする。 ・グループで教え合ったり学び合ったりする。 ・開脚跳びをにつながることを意識しながら，運動遊びをする。 ★開脚跳びにつながる踏切，腕支持，突き放しを理解できる。〈わかる〉	○開脚跳びが上達するために，跳び箱を使わない，踏切，腕支持，突き放しの運動のつながりや順番を考え，実際に試す。 ・グループごとに教え合ったり学び合ったりする。 ・開脚跳びにつながることを意識しながら，運動遊びをする。 ・順番やつながり考えて運動遊びをする。 ★開脚跳びにつながる跳び箱を使わない運動のつながりや順番を理解できる。〈わかる〉	○跳び箱を使った，踏切，腕支持，突き放しの運動のつながりや順番を考え，その運動をすることで開脚跳びが上達するか体験する。 ・グループごとに教え合ったり学び合ったりできるようにする。 ・開脚跳びにつながることを意識しながら，運動遊びをするように意識する。 ・順番やつながり考えながら運動遊びをするようにする。 ★開脚跳びにつながる跳び箱を使った運動のつながりや順番を理解できる。〈わかる〉	○これまで体験した跳び箱遊びの運動をしたり，開脚跳びや台上前転にチャレンジしたりする。 ・これまでの練習を振り返りながら，安全に跳ぶようにする。 ○これまでに学習した跳び方で跳び箱を跳び，発表会を行う。 ★これまで練習してきた，跳び箱遊びの運動をすることができたり，開脚跳びや台上前転に挑戦できる。〈できる〉
			○学習を振り返る。			
			○整理体操を行う。			
			○用具を片づける。			

評価	関	◎（ア②）	◎（ア①）	○（ア③）	○（ア②）	○（ア③）	
	思		○（イ①・②）	◎（イ②）	◎（イ③）	◎（イ③）	○（イ②）
	技						◎（ウ①）
評価方法		行動観察・ワークシート	行動観察・ワークシート	行動観察・ワークシート	行動観察・ワークシート	行動観察・ワークシート	行動観察・ワークシート

体育科学習指導案

指導者 望月 亮

- 1 日 時 平成 29 年○月○日 (○) 第○校時
- 2 学 年 第 2 学年 (男子 7 名, 女子 1 名, 計 8 名)
- 3 単 元 名 とびばこあそび
- 4 本時の目標 開脚跳びにつながる運動で, 跳び箱を使った運動のつながりや順番を考え, 運動遊びで確認し, 効果的な運動の順番を見つけることができる。
(プログラミング的思考)
- 5 本時の展開 (6 / 7 時)

学習活動	○指導上の工夫，支援 * アンプラグドコンピュータサイエンスの考えを基にしたプログラミング的思考を意識した指導 ◆評価規準 （ ） 評価方法
1 準備運動をする。	○けがのないようにストレッチをさせる。 ○とびばこあそびにつながるサーキットトレーニングに取り組ませる。
2 めあてを確認する。	
かいきやくとびにつながるうんどうのじゅんばんを考え，たしかめよう。	
3 用具庫にある跳び箱及びマット等で，運動遊びをする場を作る。	○友だちと協力し，安全に素早く行動させる。
4 グループの友だちと運動のつながりや順番を考え，実際に踏切，腕支持，突き放しの運動することを通して，最も良い順番を見付ける。	○グループで運動のつながりや順番を考え，その順番が正しいかどうか実際に試すようにする。 * 開脚跳びにつながる踏切，腕支持，突き放しの運動のカードを使って，順番を考えたり，実際に運動したりする学習活動を繰り返し，効果的に開脚跳びができるフローチャート図を完成させる。
5 順番やつながりを考えて運動したり，教え合い学び合ったりできたか振り返り，ワークシートに記入する	◆開脚跳びにつながる跳び箱を使った運動のつながりや順番を理解することができる。（ワークシート）
6 学習の過程を通して，考えたこと及び分かったことを発表する。	
7 学習のまとめを行う。	
8 用具の片付けをし，整理運動をする。	○全員で協力して安全に素早く片付けるようにする。